

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1 10 23 26 49	個別支援を実施しているにもかかわらず、個別のサービス計画に沿った支援が経過記録の中から感じ取れない	全職員がケアプランに向けて参加していることを自覚する	・日中と夜間帯で経過記録の色を変え時間帯での生活状況を理解しやすくする。・流れを記録するのではなく、個別支援に応じた経過記録を記入する。・経過記録の中から入居者の今、出来ることを探し出し支援につなげる。	12ヶ月
2	4 8 10	定期的な運営推進会議が実施されていない。	定期的な運営推進会議の実施	・議題を考えるのではなく、現状報告・家族の意見発信・地域への情報発信の機会としてとらえる。	12ヶ月
3	6 23 26 32 35	勤務態勢の問題もあり、研修の参加の機会が少ない	職員のスキルアップを図り、サービスの質の向上に努める。	・外部研修への参加。 ・職場内研修の機会を設ける。 ・職員ミーティングの開催を増やし、研修報告の場とする。	12ヶ月
4	20 35 49	ADLの低下、高齢化、認知症の進行により状況の変化に順応しにくくなっていること等に伴い外出の機会が減少、外部との交流も少なくなっている。	家族、友人、地域の住民が訪問しやすい環境を提供する。	・定期的なボランティアの協力を要請し、地域との交流を図る。 ・笑顔で対応することを忘れないようにする。	12ヶ月
5	23 45	ADLの低下、高齢化に伴い、浴槽のまたぎが出来にくくなり、また、浴槽が垂直でないためもたれかかると身体が浮くことで不安と介助を受ける精神的負担による意欲低下が見られる。	入浴に対する不安を取り除き、安全に安心して入浴できるようになる。	・浴槽の框の幅の広さを解消する。(段差と手すりがあり回転ボードの設置も出来にくい) ・手すりの増設を考える。	12ヶ月